

ログインしました

ホーム &gt; シンガポール &gt; その他製造 &gt; 南洋大系企業、料理宅配ロボットを開発

シンガポール

火 製造

あなA

文字サイズ変更 大 小

NNAからのご案内

▶ コロナ禍の労務に必須現地社員給与/昇給の最新データ

Facebookでシェア

Twitter

B! ブックマーク

あなA 翻訳

2021/02/18 (木) 16:39 JST

## 南洋大系企業、料理宅配ロボットを開発

シンガポールの南洋理工大学（NTU）は17日、同大学の学生が立ち上げたスタートアップ企業ウィズ・モビリティが、モノを運搬する自動走行ロボットを開発したと発表した。これを活用した料理宅配サービスを試験的に展開している。

ウィズ・モビリティは、新型コロナウイルス感染拡大を受けて食品宅配サービスの需要が増えていることに目を付け、20年4月に宅配用ロボット「フードボット」を開発。国内で職場や学校、小売・飲食店の大半を閉鎖するサーキットブレーカー措置の段階的解除が始まった20年6月から、NTUのキャンパス内で試験的にフードボットを活用した料理宅配サービスを開始した。食品宅配アプリを運営する地場ケイツが協力しており、これまでに受けた注文は6,000件を超える。



フードボットは4輪のついた電動ロボット。時速5キロメートルで走行する。積載量は50キログラム。現在は5台が運用されている。

NTUに隣接する環境配慮型工業団地クリーンテック・パークなどでも先ごろ、料理宅配サービスの提供を開始した。現在は複数の飲食店と交渉中で、将来的には食品以外の宅配サービスにも利用してもらいたい考えだ。

関連国・地域： シンガポール

関連業種： その他製造／サービス／社会・事件